

# 東京のたが会だより

第 24 号

平成 26 年 4 月 1 日  
発行 東京野田会  
編集 東京野田会広報委員会

## 東京野田会総会の開催の御案内

平成 26 年度の総会・懇親会が、下記により開催されます。  
会員皆様の出席をお願いします。

- |          |                                 |                       |
|----------|---------------------------------|-----------------------|
| 1. 日 時   | 平成 26 年 5 月 17 日 (土)            | 12 時 ~ 4 時            |
| 2. 場 所   | 主婦会館 プラザエフ                      |                       |
|          | 千代田区 6 番町 15                    | TEL. 03-3265-8111 (代) |
| 3. 会 費   | 男性 8,000 円 女性 6,000 円           |                       |
| (年会費を含む) | 夫婦 12,000 円 学生 3,000 円          |                       |
|          | 但し 77 才以上は男性 7,000 円 女性 5,000 円 | 高校生以下無料               |

### 特別企画

- (1) 築地の鮎食べ放題
- (2) 抽選会
- (3) 郷土の物産品の販売

## 五月十七日(土)東京野田会開催

### ご挨拶

東京野田会会長 東園 盛男



東京野田会の皆さん、お元気で暮らしのことと思います。今年は何年ぶりかの大雪で大変だったろうとお察しいたします。

ところで東京野田会は、昭和 59 年 5 月 6 日に設立総会が行われ、爾来、今年で 30 年目となります。その後、会員が増えたこともあり、郷里の旧野田町とも相談して、正式な県人会にしようということになり、設立発起人で規約を作り、設立にこぎつけたものでした。私は、設立当時から幹事長と

して野田会に係わってまいりました。

本会も一時は郷里の当時の役場から会員を集めてもたったこともあり、会員数が五百名を超える組織にまで発展しましたが、その後、転居先不明で連絡が取れなくなったりして、毎年減少し、現在は三百名程度の会員数となりました。これからは、若い会員が参加してもらえ、若いな参加しやすい、魅力ある会にしていけたらと思っております。会員の皆様には、年会費や寄付金など大変お世話になっており、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。お陰様で本会も活動を続けていけるのも会員の皆様の支えが、感謝致すのであり、感謝致

してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。  
さて、一昨年末は、突然の国会解散により衆議院選挙が行われ、民主党が国民から厳しい審判を受け、自民党が大勝利となり、政権交代が行われました。自民党が 3 年 3 ヶ月ぶりに第一党に返り咲き、政権を担当することにいたしました。  
我が国は、景気及び雇用問題を始めエネルギー問題、領土問題、TPP 参加等解決すべき問題が山積しております。こういう中で新たな内閣のスタートし、一年が経過しましたが、今のところ安倍政権は、支持率も高く、株高や円安で、順調な回復を見せておりますが、これも一部に限っております。まだまだ厳しい経済状況にあります。地方まで行き渡るまでにはもう少し時間がかかるようですが、国民も安心して暮らせることができる世の中を期待して、今年が良い年になりますよう祈っているとあります。

郷里の出水では、一昨年はツルのインフルエンザに始まり、養鶏にも影響が出て非常に心配されましたが、その後は大きな事件も無いようにホッとしているところと見えます。

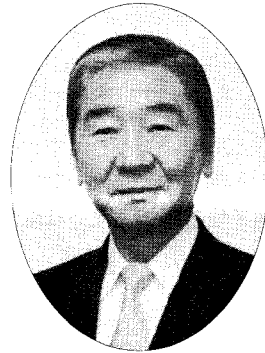
鹿児島県では九州西回り自動車道、北薩横断道路も完成に向けて進んでいるようです。郷里が発展し、便利になることは、故郷を遠く離れた私達にとっても大変嬉しいことです。

今年も5月17日(土)に恒例の総会・懇親会を開催いたします。郷里を思う気持ちには、誰にもあると思っております。本会設立30周年を記念して、会員が一丸となって、本会と郷里の発展に向けて、何か取り組みができないか検討したいと思っておりますので、今後とも会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

会員の皆様には、お知り合いをお誘い合わせの上、ご参加を心からお待ちしております。

# ごあいさつ

## 出水市長 渋谷 俊彦



東京野田会会員の皆様におかれましては、ますます御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

皆様方には、かねてから本市発展のためにふるさと納税をはじめ、多大なる御支援を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。

さて、姉妹都市の韓国順天市で、昨年4月から10月まで開催されました順天湾国際庭園博覧会に出水市から庭園を出展していただきましたが、室内庭園の部で見事銀賞を獲得し、出水の造園業の技術を国内外に示すことができました。

この造園業の技術を活かし、ツル博物館クレインパ

ークいずみの公園内に四季折々の花が楽しめるフラワ―ガーデンが、この3月に完成いたしました。市内外からの観光客を呼び込むツルや武家屋敷に加え、新たな観光交流拠点となることを期待しております。

更に、高速交通網の整備につきましても南九州西回り自動車道の鶴川内ICから阿久根北IC間が本年度供用開始予定であります。今後野田IC、高尾野ICと順次供用開始し、平成29年度までに出水ICまでの供用開始が示されております。

また、九州新幹線・肥薩おれんじ鉄道は、3月に開業10周年を迎えましたが、新幹線停車駅を待つ強みを活かして進めてまいりました農家民泊型修学旅行誘致は、大変好評で、昨年は、関西地区に加えて神奈川県や長野県からの受入れもあり、約三千人の実績がありました。

現在、「ツルが選んだ日本一住みたいまち出水市」を合言葉に、誰もが住みたい、住みやすいと思える出水市を目指して取組を進めておりますので、会員の皆様におかれましては、これまで同様御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、東京野田会のさらなる御発展と、会員の皆様の御健勝・御多幸を心から御祈念申し上げます。御挨拶いたします。

出水市マスコットキャラクター「つるのしん」と成人式



## 東京野田会会長

関東鹿児島県人会連合会副幹事長  
東京世田谷鹿児島県人会副幹事長

## 東園 盛男

〒157-0077 東京都世田谷区鎌田2-12-5-302  
電話・FAX 03-3709-2345  
E-mail:mori3070@yahoo.co.jp

有限会社 赤坂山王会館 代表取締役  
株式会社 ミタ・コーポレーション 代表取締役会長

不動産全般(売買・賃貸・管理)  
東京都知事免許(13)第13816号

宅地建物取引主任者

創業50年

## 三田 幸江

さち え

〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目14番地1号 赤坂山王会館7F  
TEL 03-3583-1850・03-3351-0194 FAX 03-3582-1843  
E-mail: info@mitacorp.jp 携帯 090-5501-0048  
URL: http://www.mitacorp.jp

## ご挨拶

出水市議会議長 外 徳 男



東京野田会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日本経済は、アベノミクスの効果もあり回復傾向にあります。また一部の地域にとどまり、益々地域の経済格差が広がっていると思われます。

また、景気回復に伴う生産拠点を国内に転換する企業も少なく、本市においても企業誘致が難しい状況であることから、地域雇用の喪失が地域経済の衰退に繋がっていると思います。

(3) 安倍首相は「景気回復の実感を全国隅々にまで届け、地域を元気にしていかなければならない。」と述べら

れました。

今後、国の政策が、地域経済の活性化となつて、市民の皆様方の暮らしの中に活気がでるよう願うばかりでございます。

出水地区では、南九州西回り自動車道と鹿児島空港へのアクセス道路として期待される北薩横断道路の整備が進められています。

このような高速交通体系の整備は、本市の未来における希望と発展のための重要な条件であると考えております。

また、平成二十五年度もツルの渡来数が、一万二千五百五十七羽で、十七年連続の万羽ツルとなりまして市民に元気を与えてくれました。

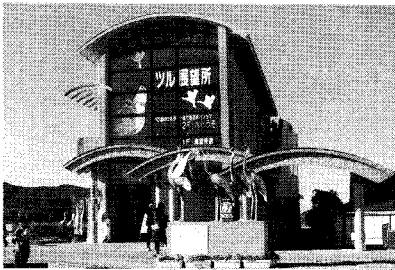
冬場の出水平野には、多くの種類の野鳥が飛来することから、県内外から野鳥愛好家がお見えになり、寒風の中、野鳥を撮影されている姿が見受けられました。

皆様の故郷野田は、薩摩藩主島津氏発祥の地として初代忠久、五代貞久の墓碑のある五廟社等の史跡など数多くの史跡、文化財等があります。

新幹線駅を持つ本市もツル・武家屋敷・史跡などの魅力をPRし、観光客誘致に積極的に取り組んでいかねければならないと思っております。

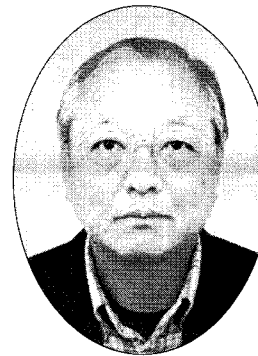
今後とも、本市の抱える諸問題の解決に向けて、会員皆様のご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。同時に、東京野田会の更なる充実、ご発展と皆様のご健勝、ご繁栄を心からお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。

### 世界一のツル飛来地展望所



## 野田支所管内の近況

野田支所長 川本千秋



東京野田会の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今年5月には昭和59年5月に野田会が発足し満30年を迎えられますこと心よりお祝いを申し上げます。

今年も17季連続の万羽ツルに357羽が飛来、野田たんぼでも優雅に親子で飛翔する仲睦まじい姿が見られました。秋にはまた家族を連れて元気に帰ってきてくれるものと思います。

昨年12月7日、野田支所を発着点とする「ツルのまちウォーキング大会」が遠くは東京、神奈川県から参加者を得て、約250人がツルを間近に眺めながらのツル観察センター折り返しコースにチャレンジ。

明けて1月17、18日は、ツル保護と地域活性化をテーマに、国内外の野鳥の専門家や市民が集い、国際ツルシンポジウム、生きるものと人・共生を考えるシンポジウムが同時開催されました。

出水市では市の鳥「ツル」が選んだ日本一住みたいまち「出水市」を掲げ、交流人口の拡大と定住化を促進するため、将来への架け橋となる農家民泊による修学旅行生の誘致、子育て支援事業、定住促進(支援)事業、山村留学など様々な事業に取り組み、インターン・Uターンによる定住、定年後の田舎暮らしへの魅力を発信しています。

社会の趨勢として、ここ野田地域においても、高齢化と少子化による人口減少が進み、高齢化率53.6%、凡そ3人に1人が高齢者(1409人/349人)、出水市全人口31322人)という状況にあり、野田小児童は212人、野田中生徒数127人です。故郷に生きる私たちは、これからも地域社会の原点

(4)である「絆」と「輪」を大切に  
にして、故郷の火を消さない  
よう頑張つてまいりたい  
と思います。

この様な中、野田中剣道  
部が鹿児島県中学校新人剣  
道大会(昨年12月8日開催)で見事  
準優勝に輝き、九州大会及び  
全国大会に出場するという  
快挙を見せてくれました。

昨年10月の東京国体には、  
野田町出身の橋元晃志選手  
(陸上短距離・早稲田大学)、女子サッ  
カーの假屋麻衣子選手(鳳凰  
寝)が県代表チームで出場。  
オリンピックへの夢も膨ら  
ませてくれました。

11月には野田町青年団が  
2年続けて県代表として、  
全国青年大会にフットサル  
とのど自慢の部に出場。前  
回大会の悔しさ(3線全敗)を  
バネに今大会は1勝2敗、  
惜しくも決勝へは上がれま  
せんでしたが、悲願であつ  
た全国で1勝ができ一寸自  
信がついたようです。のど  
自慢の部では、見事最優秀  
賞グランプリに輝いていま  
す。今後はさらに、これら  
の貴重な経験を胸に、東園  
会長さんをはじめ役職会員

**野田町青年団を激励**  
(東京野田会)



**野田中学校**  
(剣道部)



皆様から頂きました励まし  
に感謝しながら青年らしく  
成長し、野田地域の活性化  
に活かしてくれるものと思  
います。

終わりに、東京野田会の  
御発展と会員皆様の御健勝  
・御多幸を心から祈念申し  
上げ、併せてふるさと出水  
への一層の御支援・御協力  
をお願い申し上げます。

**初めての海外生活地**

大平啓二  
(本町出身)



(ラ・ホヤ)の海岸で

二〇〇四年から退職まで  
の六年間と、その後二年間  
を転勤により、米国サンデ  
イエゴで過ごしました。

初めての海外生活で印象深  
かったので少し紹介したい  
と思います。

サンデイエゴは、アメリ  
カ西海岸カリフォルニア州  
の南端にある全米で七番目  
に大きな都市です。ロサン  
ゼルスより南へ車で二時間  
程のところであり、メキシ  
コと国境を接しています。

気候は全米で最も温暖で  
雨が少なく夏は暑いわりに  
凌ぎ易く、夜になると涼し  
くて外出する時には上着が  
いるくらいです。冬でも厚

手のコートは必要ありませ  
ん。

現在は、成田からサンデ  
イエゴ空港までの直行便が  
運航していて便利になりま  
した。

サンデイエゴはカリフォ  
ルニア発祥の地とも呼ばれ  
ていてメキシコ文化の影響  
が多く感じられ、どこかエ  
キゾチックな雰囲気溢れ  
た街です。

見どころとして、世界最

大規模を誇るサンデイエゴ  
動物園、ワイルド・アニマ  
ルパーク、美しい海浜公園  
ミッシェン・ベイに隣接し  
たシーワールド、植物園や  
美術館・博物館のある都市  
公園バルボア・パーク、大  
平洋を見渡せるコロナドア  
イランド、見晴しのいいポ  
イント・ロマなど観光名所  
は数多く、マリンスポーツ  
やゴルフなどあらゆるアト  
ラクションが楽しめる一年中  
観光客が訪れています。

メキシコと国境を接して  
いるため、多くがヒスパニ  
ック系でスペイン語と英語  
の両方が公用語であり、町  
のあちこちから軽快なリズム

ムのラテン音楽が聞こえ、  
食事でもメキシコ料理の店が  
多く見られます。

また、アメリカ海軍の基  
地があるため、沖繩や横須  
賀に勤務した人が多く、日  
本人の奥様を持つ人も多く  
が出来ます。

私にとってサンデイエゴ  
生活は、とても充実してい  
て楽しく過ごせた八年間で  
した。

皆様も機会があれば是非、  
訪れてみてはいかがでしょ  
うか。

**東京野田会**

相談役 **田代貞幸**

〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-11-10

TEL・FAX 045-821-1836

●日米加吟詠連名・日本國風流詩吟吟舞会 副理事長

●コロムビア吟詠音楽会 理事

## サッカーとの出会い

小濱保弘



一昨年の十二月、野田中学校の昭和四三年卒業生の還暦同窓会が出水のホテル「キング」で開催され、五十数名の同級生とともに懇親会に出席し、希望者のみであったが霧島温泉への一泊旅行を楽しんできた。中学卒業後は多くの同級生と疎遠となっていたこともあって、四五年ぶりの再会は懐かしく、お互い初老になったとはいえ歴史をタイムスリップしたような出会いであった。

(5) さて、サッカーの話である。われわれの小学校時代は「巨人・大鵬・卵焼き」と流行語になるほどスポーツと言えば野球と相撲が大人気であった。当時の日本の

サッカーはマイナーで、昭和三九年の東京オリンピック後に静かなブームが起った程度だった。メジャーとなった今とは雲泥の差がある。私が初めてサッカーと出会ったのは東京オリンピックの翌年、中学一年の二期の秋だった。野田中学のサッカー部はその二期に誕生したばかりで、みんなが素人集団、入部してしばらくは体育の授業の紅白戦のようにボールを蹴って遊んでいるようだった。

そのうち対外試合に臨むようになったが、軽くあしらわれ、コテンパーに打ちのめされた。それからである。サッカーの基本練習と戦術の練習に明け暮れたのは、まさに「青春」そのものであった。そして県大会前までは高尾野中学には負けなくなったし、県内でも強豪校の一つであった米ノ津中学とも互角に戦えるようになっていた。それなのに県大会では一回戦で敗退してしまった。悔しい思い出である。

サッカーが蹴球という言葉

葉を知ったのも中学時代だ。テニスや庭球、バレーボールが排球、バスケットボールが籠球というように。サッカーは中学卒業後、しばらく休止していたが、社会人となってから復活し、五十歳まで続けた。若者相手に四十分や四五分ハーフの試合に奮闘し、楽しませてもらい、多くの仲間と知り合えた。こんなに長くサッカーにかかわれたのも中学時代のサッカーとの出会いがあったお陰であろう。

今年ブラジルでワールドカップが開催され、わが日本代表も出場する。優勝とまでは言わないまでも、せめて予選リーグは突破し、感動を与えてくれるよう一生懸命応援したい。“頑張れ！ニッポン！”である。

## 中国勤務の思い出

梅田幸生

平成一八年四月より平成二四年四月までの六年間、中国現地法人本社のある上海に赴任した。

当時の時代背景としては、平成一五年、重症急性呼吸器症候群“サーズ”の大流行、赴任前年の四月には、日本国上海総領事館や日本料理店の襲撃映像で記憶される反日暴動が発生、反日気運の高まりの中での赴任となり、緊張と不安を抱えて上海空港に降り立ったことが昨日のように思い出される。

中国在勤中の主な出来事としては、平成二十年五月四川大地震が発生、震源地より二五〇キロ以上離れている上海市でも揺れが感じられ事務所ビルより大勢の人が歩道に避難したのが思い出される。

中国では義援金を義損金と言い、企業、団体名と金額をテレビのテロップで流すなど印象深い復興活動だった。

同年八月には北京オリンピック、翌平成二十一年十月は中華人民共和国建国六十周年、平成二二年五月の上海万博開催と国の威信をかけた国家プロジェクトが続き、大規模且つ急速な開発

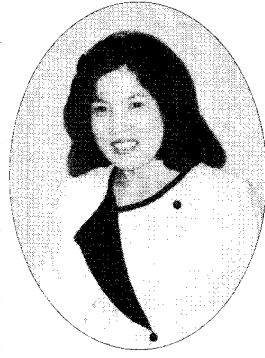
が全国規模で開催された為に、超高層ビル群に代表される都市部の近代化と道路や鉄道など社会インフラ整備が進んだ反面、汚職、格差拡大、或いは深刻な環境汚染に直面している。

個人的には、野田小中、出水高校、早稲田大学を卒業後、国際物流を主要業務とする会社に入社、平成二四年末に定年退職するまで約三七年間勤務した。

最後の任地上海では現地法人経営責任者として、日中という微妙な関係やリーマンショックによる景気低迷時期はあったものの、着任当初は二百名弱、北は大連、青島、南は広州、厦門、長江(揚子江)沿いに、上海、蘇州、無錫、杭州等の既存勢力、拠点に加えて、中国政府の内陸部開発政策に伴い、新たに寧波、南京、合肥、武漢、重慶等の新規拠点を開設、帰任時には五百名を超える規模に事業拡大出来たことは、住んでみるとわかっていない現地生活と共に、忘れられない貴重な体験となった。

# 今 想う事

道山ヒロ子  
(下特手出身)



今年は厳しい寒い日が続きました。同郷の皆様、元氣でお過ごしでしょうか。三月に入ると、寒さも少しは和らぎ、日差しが、春の訪れを告げてくれる頃となりました。

我家のベランダでも、春を知らせる様に、菜の花やいろんな花々が、咲き始め心を和ませてくれます。先日にも近くの堤防を散歩しながら春を探していたら、のびるを見つけ、少し葉っぱを取り、顔に近づけると懐かしい香りがしました。子供の頃、春になると山や野原に、丘に山菜を摘みに行き、風呂敷いっぱいに包んで帰った事が昨日の様に思い出されます。

私達、昭和十八・十九年生まれの子希同窓会が、平成二十四年十一月に故郷で開催されました。町の改善センターに集合、五十数名の皆様が出席されバスにてあちらこちらと見物しながら一路指宿へ。再会した人達の中には、十数年ぶり又はは、五十数年ぶりに再会した方もおられて、感慨無量でした。その方の後々の便りには、タイムスリップした様だったと書いてありました。

ところで、この度松ヶ角さんより連絡を頂き、野田会の仲間入りをさせて頂く事になりましたので、私の近況を少し書いて見る事にしました。私は二年前に、娘夫婦のそばに転居して参りました。数十年、住みなれた大阪を、友達、お世話になった方々、何よりも同級生の仲間と離れる事は、悲しく淋しく辛いものでした。特に大阪での同級生との交流は奥の深いもので助け合いはげまし合い、強い絆で結ばれていましたので本当に淋しい思いでした。

今でもその絆は続いており連絡がある度に、大阪に足を運び皆と会い楽しい時間を過ごして、元氣をもらっています。この年令になつての慣れない土地での生活は、想像した以上に淋しく心細く体調をくずして落ちこんでいる私を、娘夫婦、孫達は温かく見守り何かと氣遣つてくれました。そんな折、有難い事にこちらの同級生からの電話で、会いましょうと誘つて頂き、又々同級生に助けられ元氣づ



紫尾山

けてもらつて本当に心より感謝です。これを機会に、同郷の皆様方との交流が少しでも出来ます事も願っております。今後共どうぞ宜しくお願い申し上げ、お会い出来る日を楽しみにしております。

## “ 第十七回渋谷・鹿児島おはら祭り 皆様のご参加を ”

Shibuya Kagoshima Ohara Festival 2014

第17回 渋谷・鹿児島 おはら祭り

5.18(日)

17日(土) 10:00-17:00 渋谷ハチ公前広場  
18日(日) 10:00-16:00 渋谷ハチ公前広場

17日(土)-18日(日) 10:00-17:00  
鹿児島県立実業専門学校(鹿児島市) 二ノ宮(中野区) 実業専門学校  
・ツルギ(中野区) 実業専門学校(文京区) 実業専門学校  
18日(日) 10:00-17:00  
・中野区(中野区) エーパーク  
18日(日) 13:00-16:00 ・芝罘(中野区) 実業専門学校

会場：渋谷・鹿児島県立実業専門学校  
協賛：中野区、渋谷区、鹿児島県立実業専門学校、中野区、鹿児島県立実業専門学校

日本生まれの、産摩育ち。

**赤鶏**  
さつま

代表理事組合長 **田下 豊**  
YUTAKA TANOSHIMO

〒899-0502  
鹿児島県出水市野田町下名91番地  
TEL (0996) 84-2022  
FAX (0996) 84-2190  
Eメール: tanoshimo@akadori.co.jp

エル・ド・キャッスル 新宿区歌舞伎町1-16-6 第6ポルスタービル7F  
TEL.03-3207-6131

シースタイル 新宿区歌舞伎町1-15-8 白木ビル5F  
TEL.03-3203-5714

ちづる食堂 新宿区歌舞伎町2-41-3 吉野ビル1F  
TEL.03-3203-6861

ちづる食堂 和光店 埼玉県和光市本町5-2 和光ビル1F  
TEL.048-462-5354

ニューマキシム 埼玉県和光市本町5-2 和光ビル2F  
TEL.048-462-5047

**株式会社 YABU 企画** 代表 **平 藪 重 雄**  
新宿区歌舞伎町2-41-11 広野ビル6F



# 報告 平成二十五年度総会・ 懇親会を終えて

平成二十五年度「東京野田会総会」が、平成二十五年五月十八日(土)東京都千代田区六番町の「主婦会館プラザエフ」にて、当日は好天気に恵まれて、郷里から外(ホカ)市議会議長、川本野田支所長、鶴田市議会議員、松岡秘書広報課長、川曲市議会事務局長、森山産業振興部観光交流課主査、田下南九食品株式会社代表取締役の他、富窪



鹿兒島県東京事務所ふるさと交流課長、「関東ふるさと出水会 伊藤会長」、「東京高尾野会 唐崎会長」、「関東阿久根会 中野会長代行」、「出水望郷の会山中連長」、および今年初めて「関東ながしま会の児島会長」にも来賓として出席していただき、会員53名も含む総勢75名の大勢の出席者のもと盛大に滞りなく開催することが出来ました。

総会・懇親会につきましては、例年立食形式にて実施してまいりましたが参加者の方々も高齢化していることから、今年はレイアウトを再検討して円テーブルで着席にて実施した結果、好評を得て今後も今回の形式にて開催していく予定です。

総会は、古川園企画委員長の司会のもと、開会の辞で始まり、会長の挨拶、来賓の挨拶、来賓紹介、議事お

よび閉会の辞と滞りなく進みそれぞれの議事が承認されました。来賓の挨拶においてはそれぞれの立場から、郷里野田町を中心に出水市の現況等を限られた時間の中で報告していただき、会員も郷里の近況等の報告に耳を傾けて聞き入っておられました。

総会終了後、出席者全員で記念撮影を行い、懇親会に入り所用で遅れて到着されました渋谷市長にも同席いただき、各位に挨拶いただいた後に大迫相談役の乾杯の音頭で懇親会に移りました。会場内は、毎年のことながら久々の野田弁を交えて懇親会も和やかな内に進み、新たに参加いただいた会員も含め皆さんも久しぶりに郷里に帰った想いを味わっていたいただいたのではないのでしょうか。

平成12年度から始めました郷里で生産された特産品の販売につきましては、14年目になり継続しています。今年是一部新メニューを加えて出席者に購入に協力いただきほぼ完売し好評

をいただき来年からは特産品の品目を見直し継続していく計画です。

懇親会も乾杯から始まり、各位の挨拶、ふるさと紹介としてDVDにて「今と歴史が出遭う町」がありがとう野田町の放映、会員の懇親、野田町特産品の販売、余興、景品提供者紹介、抽選会と二時間半の短い時間ではありましたが、懇親会の進行も時間に追われる様な例年に無く盛会に開催終了することが出来ました。

「ふるさと」を参加者全員で合唱し、最後に松崎相談役の音頭で万歳三唱を行い閉会の辞で、総会および懇親会は無事終了致しました。帰りには、出水市より地元の焼酎が出席者全員にお土産として配られました。

## 歌って踊る



ゆっくり座って



食べて



